

犠牲陽極材 — 電気防食（バッテリー式） 腐食抑制型

「ガルバシールド FUSION」は、次世代のハイブリッドシステムを使用した犠牲陽極材です。高性能の電気防食システムと 20 年以上の実績のある犠牲陽極システムを融合させ、従来と同様に外部電源を使用することなく提供することができます。

「ガルバシールド FUSION」を設置することで、まず初めに内蔵されたバッテリーより供給される高密度の防食電流が鉄筋腐食を不活性化し、その後自動的に犠牲陽極システムに移行することで、高い防食性能と長期間の防食環境を維持します。

「ガルバシールド FUSION」は、他のガルバシールドと同様に高アルカリ性バックフィル材で形成されます。長期的な犠牲陽極材の防食性能は亜鉛量だけでなく、バックフィル材（亜鉛促進剤）の鉄筋に対する品質（塩化物、臭化物を含まない）も非常に重要な役割を担います。

特長

- 特許技術 & 20 年の実績
- 防食性能

すでに立証されている電気防食技術と犠牲陽極技術を 1 つの製品に融合させました。
- バックフィル材（亜鉛促進剤）

犠牲陽極材による長期的防食性能は、バックフィル材の成分が鉄筋腐食を促進させる塩化物、臭化物を含まないことが重要です。
- 防食効果

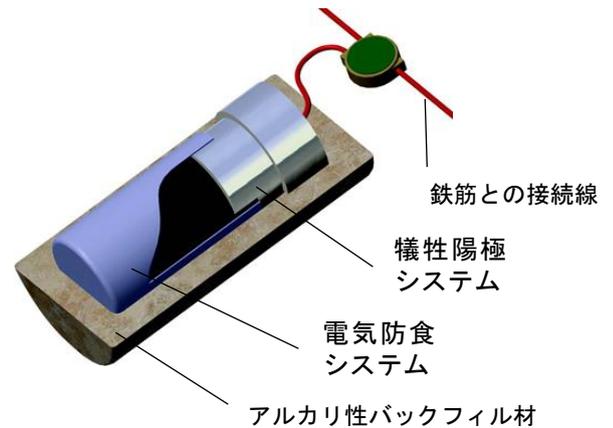
マクロセル腐食抑制や、腐食が進行している鉄筋に対しての防食効果が得られます。
- 施工性

外部電源を必要とせず、ドリル削孔やコア削孔にて簡単に施工でき、専用のコネクタにより迅速な取付けが可能です。
- メンテナンスフリー

電源設備など維持管理費用は必要ありません。
- 耐用年数 約 30 年

耐用年数は腐食環境により前後することがあります。

■ 外観



仕様

■ 適用範囲

防食レベル	定義	FUSION
鉄筋防錆 (マクロセル)	新しい腐食の発生を防ぐ	○
腐食抑制	進行中の腐食を抑制する	○
電気防食	進行中の腐食を止める	○

■ 防食性能

XP = XPT < CC < XP2 < XP4 < DAS / FUSION

※施工時に潮位の影響を受ける場合はご相談下さい。

■ 設置間隔

設置間隔は、防食対象部の鉄筋比率（鉄筋表面積とコンクリート表面積）、および塩化物イオン量により決定します。

弊社までお問合せください。

■ 形状

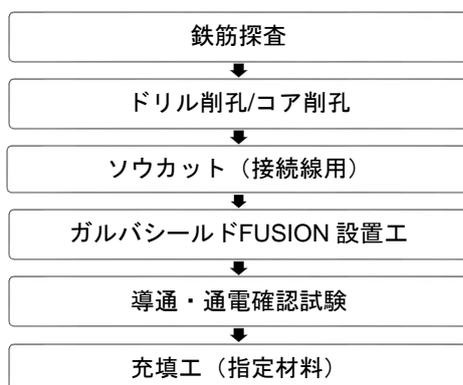
製品	形状 (mm)	最小削孔サイズ (mm)
T2-100	Φ 46 x 100	Φ 50 x 130
T2-135	Φ 29 x 135	Φ 32 x 165

※施工方法は、連結もしくは個別にそれぞれを鉄筋と設置することができます。

※サイズは標準値で製品には公差があります。

施工方法

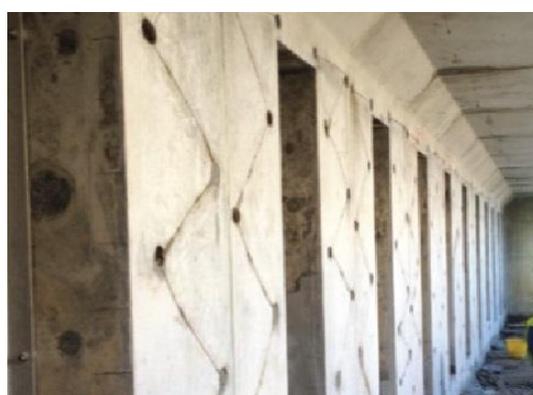
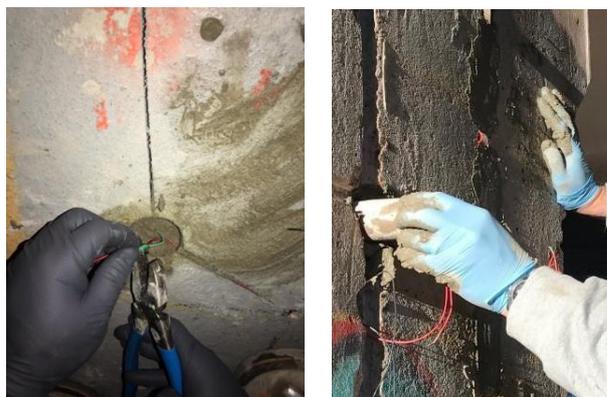
■ 施工フロー



■ 施工手順

- ① 鉄筋探査
 - ・ 鉄筋周辺部の設置予定箇所にマーキングを行う。
 - ② ドリル削孔/コア削孔
 - ・ 「ガルバシールド FUSION」の径に合わせ削孔する。
 - ③ ソウカット
 - ・ 「ガルバシールド FUSION」を連結させる接続線を埋設するためにソウカットを行う。
 - ④ 設置工
 - ・ 削孔部の清掃後、十分に水打ちし、指定充填材「ガルバシールドベディングモルタル」を深さの 2/3 程度詰めした後「ガルバシールド FUSION」をゆっくりと挿入する。
 - ・ コンクリート表面まで必ず 20mm 以上のかぶりを確保する。
 - ④ 導通・通電確認試験
 - ・ マルチメーターにて、「ガルバシールド FUSION」接続線と鉄筋の抵抗が 1.0Ω 以下であることをすべての接続箇所にて必ず確認する。
 - ⑤ 断面修復工
 - ・ 「ガルバシールド FUSION」埋設後の断面修復には認証モルタルにて修復する。
 - ・ 指定外の断面修復材は、設置間隔や防食範囲など想定する効果が発揮できない恐れがある。
- ※詳細は施工要領書を参照下さい。

■ 設置例



荷 姿

20 個／箱

保管上の注意事項

- 保管は直射日光を避け、冷暗所で保管して下さい。
- 保管時に本品が水に濡れないよう注意して下さい。

安全衛生上の注意事項

- 強いアルカリ性を有しますので、マスク、保護メガネ、ゴム手袋等の保護具を着用して下さい。
- 目に入った場合は、直ちに清浄な水で十分洗浄し専門医の診断を受けて下さい。
- 皮膚に付着した場合は、直ちに大量の水で洗浄して下さい。